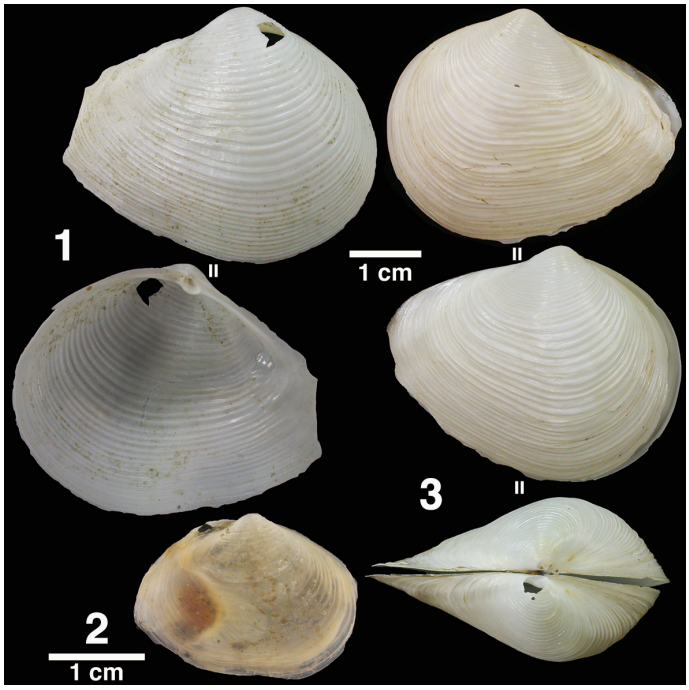
ヤチヨノハナガイ　*Raeta pellicula* (Reeve)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で死殻が採集されたが、生貝が採集されない（中山, 1980：木村, 1996：木村, 2000）。その後、2016 年に名古屋港沖（水深 5–15 m）よりドレッジで 1 個体生貝（図 2）が採集された。しかし、それ以外では生貝は記録されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



1: 南知多町内海沖(ドレッジ水深 10–15 m), 2000 年 7 月 27 日,
2: 名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 5–15 m), 2016 年 10 月 25 日,
3: 伊勢湾湾口部(勢水丸ドレッジ水深 20 m), 2014 年 12 月,
木村昭一採集

【形　態】

殻長約 40 mm で殻は白色で非常に薄くやや膨らみ、殻皮は光沢が強い。前縁は丸く、後縁は狭く裁断状となる。内湾の貧酸素層の発達する海底に多産するチヨノハナガイと近似するが、本種は大型で、殻表の輪肋が多く密で光沢が強い点で、区別は明確である。生きた個体では殻が薄いので軟体部が透視できる（図 2）。

【分布の概要】

【県内の分布】

2016 年の名古屋港沖の 1 個体以外、生貝が確認できない。死殻でさえ採集することは難しい。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、台湾、フィリピン、東南アジア、日本では福島・兵庫県～九州に分布する（福田, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。ほとんど生貝が採集されないので、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

福田　宏, 2012. ヤチヨノハナガイ, p. 143. in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野. 285pp.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3–19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20. 名古屋貝類談話会.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10–12. 名古屋貝類談話会.

（木村昭一）